



しののめYMCAこども園

園だより

2018年度6月号

発行者：こども園園長 堀江和広

聖句「互いに愛し合いなさい」

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

これがわたしの掟である。

6月の聖句「空の鳥を良く見なさい。…あなたがたの天の父は鳥を養って下さる」

マタイによる福音書 6章 26節

楽しかったゴールデンウィークも終わり、年少クラスでは給食が始まるなど、本格的な保育が展開されています。変則的な休日ではありましたが、休み明けの登園が気になっておりました。

休み明けは、大人でも気が重くなりがちです。ましてや子どもたちにとって、4月から始まった園生活に十分に慣れていない事や、安心できる自分の居場所を探し切れていない事もあり、園に通うことに気が進まなかったり、心が重くなるのは私たち以上ではないかと思えます。

いつもは笑顔で登園するのに、“行きたくない”と言いだしたり、門の前で急に“帰りたい”と言ったり、またお母様やお父様と離れられなくなったり…子どもたちは様々な行動や発言で、自分の気持ちを表現してきます。朝の忙しい時間帯でのこの様な出来事は、お母様やお父様にとって、驚き・困惑・そして焦燥感に駆られるのではないのでしょうか。

私はその様な光景や場面を見ると、『急がなくて良いですよ』『他者の目を気にしなくて良いですよ』『その子が満足するまで、話を聞いて下さいね』『最後に思いっきりギュッと抱きしめて下さいね』…、お母様やお父様には、そんな風に接して欲しいと心の中で思い、願っています。時間を気にしているようであれば、『急がなくて良いですよ』と声をかける事もあります。

また、『今日はお母さんと一緒に行ってごらん！』と促す事もあります。暫くすると、子どもは落ちつきを取り戻し、自分の教室へと向かっていきます。

『大丈夫ですよ！』『安心して行ってきなさい！』『お母さんやお父さんがついているよ！』…。お母様やお父様の愛情に勝る力はありません。子どもはその愛情の確認と、愛情の充電をしているのではないのでしょうか。

この繰り返しがあってこそ、子どもたちは成長するのだらうと感じております。どうぞ焦らずじっくり子どもたちと向き合ってください。今月もよろしくお願ひ致します。

園長 堀江和広